

# 価値創造の歴史

コマツは創業以来、時代に先駆けて M&A を実施し、事業領域を拡大させながら成長を加速させてきました。

## 1921

### 創業

コマツは、創業者・竹内 明太郎が開発した遊泉寺銅山（石川県小松市）を採掘する鉱山機械を製作した「小松鉄工所」（1917 年設立）が母体となって設立されました。地方に工業を興し、産業を発展させたいという信念と、「良品に国境なし」という高い志のもと日本の工業振興に尽力した竹内は、創業の当時から世界を視野に入れて技術開発とものづくりを行うことの重要性を説いていました。竹内が掲げた 4 つの「創業の精神」は、現在もコマツの DNA として私たちに受け継がれています。

#### 【創業の精神】

- 海外への雄飛
- 品質第一
- 技術革新
- 人材の育成



創業者 竹内 明太郎

## 技術の獲得

### 1961

カミンズ社（アメリカ）とディーゼルエンジンに関する技術提携契約締結

### 1988

ドレッサーインダストリーズ社（アメリカ）との合弁会社を設立し、超大型エレキダンプトラック事業を獲得

### 2004

林業機械の製造販売会社であるバルテック・フォレスト社（スウェーデン）を買収

### 1994

鉱山機械のフリート管理システムの開発を行うモジュラーマイニングシステムズ社（アメリカ）に資本参加

### 1995

マンネスマン・デマーグ社（ドイツ）との合弁会社を設立し、超大型油圧ショベル事業を獲得

### 2017

大手鉱山機械メーカーであるジョイ・グローバル社（アメリカ）を買収

### 2021

ソリューションビジネスの企画・開発機能を担う EARTHBRAIN 社を設立（ジョイントベンチャー）

### 2022

坑内掘り鉱山の通信機器を扱うマインサイトテクノロジーズ社（オーストラリア）を買収

### 2022

坑内掘り鉱山機械メーカーである GHH 社（ドイツ）の買収を決定（2024年買収完了）

### 2023

バッテリーメーカーの American Battery Solutions 社（ABS 社、アメリカ）を買収

## バリューチェーン強化

### 2000

建設・鉱山機械部品メーカーのヘンズレー・インダストリーズ社（アメリカ）を買収

### 2011

ダンプトラックボディメーカーの DTSA 社（チリ）を買収

### 2015

アタッチメントメーカーのレンホフ社（ドイツ）を買収

### 2018

林業アタッチメントメーカーの Quadco 社（カナダ）を買収

### 2019

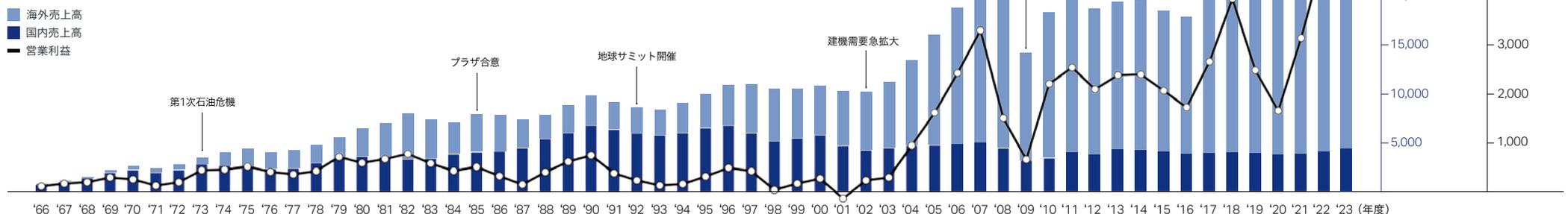
林業機械メーカーの TimberPro 社（アメリカ）を買収

### 2022

植林アタッチメントメーカーのブラッケ社（スウェーデン）を買収

## グローバル連結経営の歩み

### 国内・海外売上高と営業利益の推移



## 価値創造の歴史

### 製品の進化

#### 1931

##### 国産トラクター第1号完成

農林省からの要請を受け、農耕用トラクターの国産化に挑みました。他社は試作段階で中止するなか、コマツは「他社が手掛けない独自の製品をつくりたい」と希望に燃え、日本初となるトラクターを完成させました。



#### 2008

##### ハイブリッド油圧ショベル (世界初) を市場導入

世界で初めてハイブリッド油圧ショベルを発売しました。独自開発したシステムにより従来機と比較して約25%の燃費低減を実現。2016年には、20トンクラスに続いて30トンクラスにもラインアップを拡大しました。



#### 2013

##### ICT 建機 (世界初) を市場導入

ICT ブルドーザーを市場導入。整地の仕上げ作業だけでなく、掘削作業時を含むブレードコントロールを世界で初めて自動化しました。2014年にはマシンコントロールを装備したICT油圧ショベルを市場導入しました。



#### 2020

##### 人検知衝突軽減システムを標準搭載

自社開発した「KomVision 人検知衝突軽減システム」を業界で初めて油圧ショベルに標準装備し、日本市場への導入を開始。幅広いお客さまへ当システムをお届けすることで、建設現場の安全をサポートしています。



#### 2020

##### バッテリー駆動式ミニショベルを市場導入

日本市場向けレンタル車として導入を開始しました。エンジン駆動式と同等の掘削性能を発揮しつつ、「排気ガスゼロ」や騒音の大幅低減を実現。将来的に人・環境に優しい機械の普及拡大を担う先進モデルです。



#### 2023

##### 電動化建機7機種でGX建設機械の認定を取得

日本市場向けのバッテリー式電動油圧ショベル5機種、有線式電動油圧ショベル2機種、計7機種すべてで、国土交通省が新設したカーボンニュートラルに資する「GX建設機械認定制度」の初回認定を取得しました。



### ソリューションの進化

#### 1995

##### リマンビジネスのスタート

お客さまから回収したコンポーネントを再生して提供するビジネスを約30年前からスタート。需要は順調に拡大し、現在では資源循環型ビジネスである「リマン事業」としてグローバルに展開しています。



#### 2001

##### 「Komtrax (機械稼働管理システム)」標準搭載

建設機械の情報を遠隔で確認できる機械稼働管理システム「Komtrax」を、日本向け機種に標準搭載。2002年には北中南米や欧州にも拡大し、現在ではコマツの建設機械約77万台(2024年6月末現在)に搭載されています。

#### 2008

##### 鉱山向け無人ダンプトラック運行システム (AHS\*) を商用導入

2005年にチリで試験導入し、2008年には世界初のAHSの商用導入に成功。現在では世界5カ国23カ所の鉱山で700台以上が導入され、累計総運搬量は75億トン(2024年2月末現在)に達しています。

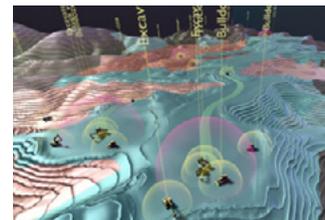
\* Autonomous haulage system



#### 2015

##### 「スマートコンストラクション®」の提供を開始

IoTデバイスやアプリケーションなど多様なデジタル技術を駆使して建設現場のすべてを「見える化」し、安全性・生産性・環境適応性などの課題解決を図るソリューション。デジタル技術の進化とともに、更なる高度化を図っています。



#### 2021

##### 工場稼働状況可視化システム「Kom-mics」の販売開始

工作機械やロボットから稼働データおよび加工データなどの各種データを収集・分析することで、工場の稼働状況の可視化や最適化に向けた施策立案を支援するプラットフォームを自社開発し、クオリカ株式会社を通じて販売しています。

#### 2023

##### 号機管理システムの運用開始

お客さまの機械ごとの開発・生産・稼働・修理履歴などを号機管理プラットフォームで一元管理。販売代理店向け画面(KomFleet)も提供し、お客さまのニーズに応じた最適な販売・サービス提案の充実化を図っています。

